

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 広報誌

訪看 ぬくもり

命を^{み まも}看護る訪問看護



vol. **21**

令和4年3月発行

目 次

「コロナ後の訪問看護を見据えて」

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 会長 池田 琢哉	1
----------------------------------	---

「地域と訪問看護の連携」

鹿児島市地域包括支援センター本部 業務課長 堀之内 克行	2
------------------------------------	---

【令和3年度 活動報告】

専門委員活動報告（管理運営・業務検討、教育、広報）	3
---------------------------------	---

【地区活動報告】

・ 鹿児島地区	6
・ 指宿・南薩地区	7
・ 日置・川薩・出水地区	8
・ 伊佐・姶良地区	9
・ 曽於・肝属地区	10

医療的ケア児とは	11
----------------	----

COVID-19 アンケートについて	12
--------------------------	----

東洋羽毛九州販売株式会社鹿児島営業所様より本協議会への寄附金贈呈	14
--	----

入会のご案内	15
--------------	----

表紙写真について

大好きなお友達と一緒に、初めてのこども園の運動会。
優しい先生や看護師さん達に見守られながら、笑顔いっぱい、
最後まで楽しくがんばりました！



コロナ後の訪問看護を見据えて

鹿児島県訪問看護ステーション協議会

会長 池田 琢哉

少子超高齢化が進むなか、要介護者や医療的ケアが必要な在宅患者の増加に伴い、訪問看護のニーズが高まっております。各会員事業所におかれましては、この2年間、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながらの訪問看護になったかと存じますが、通常の訪問看護はもちろん、時には新型コロナを疑う患者や感染者への訪問看護も行っていたいただいており、深甚なる敬意を表します。

令和3年度介護報酬改定では、全ての介護サービス事業所に対し、「感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制の構築」が求められました。会員事業所では、これまでも感染症や災害時の業務継続に対する取組を講じていらっしゃると思いますが、小規模な事業所が多いなかで、解決できない課題も多いのではないかと感じております。

本協議会の役割のひとつは、こうした課題に対応するため、幅広く情報を収集し迅速に共有することです。本協議会では昨年度から、情報共有ツールとして「Chatwork」を導入し各事業所間の連携を図ってきました。また、今年度は訪問看護活動の更なる活性化と会員間の情報共有のため、ホームページの作成に着手し無事開設することができました。ホームページでは各種研修会の案内や本協議会の活動紹介をしておりますので、ご活用いただけたらと考えております。今後もオンラインを利用した研修会の開催等、ICTの活用を推進していきたいと考えております。

訪問看護を取り巻く環境は年々変化しており、新型コロナによって更にニーズが高まり、コロナ後においても各種の運営課題に挑戦していかなければなりません。今後は、訪問看護の従事者向けにどれだけ情報発信ができるか、そして従事者同士でどれだけ情報共有ができるかが、コロナ後に訪問看護ステーションのより円滑な運営等を継続させていく鍵になっていくと考えております。

本協議会といたしましても、訪問看護を取り巻く課題や今後の展望に対し、ニーズに沿った事業を実施して参りますので、引き続き、本協議会の活動へのご理解・ご協力を賜りますようお願い致します。



地域と訪問看護の連携

鹿児島市地域包括支援センター本部
業務課長 堀之内 克行

同志社大学の教授である空閑浩人先生は、地域にける福祉活動の本質は「つながり続けること」と話しています。高齢者の方は地域のつながりのなかで助けたり、助けられたりといったソーシャルサポートの関係のなかで馴染みの方と住み慣れた地域で生活しています。

このソーシャルサポートは、本人が主体的に生きるための自己決定を可能とする適切な情報提供といった「情動的サポート」と、望む生活の実現のための直接的支援としての「手段的サポート」、また本人の考えや行動を認め、肯定的な評価をする「評価的サポート」、さらに本人の抱える精神的な苦しみや悲しみを癒してくれる「情緒的サポート」があります。

ただいくら専門職が関わり、「情報」「手段」「評価」といった支援体制が整っても、「情緒的サポート」がなければ、完治が難しい疾患や障害に伴う生活のしづらさや将来への不安、また心身の機能低下、配偶者の死という喪失感や介護の苦しみといった精神的な痛みは癒されることなく、場合によっては孤独を感じてしまい、穏やかな生活とは程遠いものとなります。

疾患を起因とする体調や今後の生活への大きな不安がある高齢者に対し、医療に精通した訪問看護の方が病気に専門的な視点で向き合い、精神的な苦しみや痛みにも情緒的に寄り添い、高齢者の思いに対して共感し分かち合うことで、大きな安心感につながり、穏やかに尊厳もった生活を取り戻し、心の安定から生活上の役割や生きがいを持ったその人らしい生活の実現につながったケースをたくさん見てきました。

最近では地域の関係性も希薄化しており、疾患や介護の理解不足から偏見や「病院や施設に入ればいいのか」といった善意の排除とも受け取れるケースも少なからず見受けられます。また、認知症や障害の理解があっても、どう接していいか分からず高齢者と地域が繋がらないケースもあります。

訪問看護や介護の専門職が在宅支援において専門的・情緒的視点を本人や介護者の方、また近隣の方を通じて地域に発信していくことが、病気や障害・介護について理解し、人に関心を持ち、地域に関心を持ち、具体的な行動に移せるようになるといった、人と人とのつながりの醸成や地域のサポート体制の構築につながっていくと思います。このことが「地域と医療・介護の連携」の第1歩だと感じます。

たとえ、大きな疾患に罹患しても、たとえ認知症になっても、温かな地域に見守られ、温かい専門職の支援に支えられ、「住み慣れた地域で最後まで自分らしく生きることができるんだ」と思ってもらえる、そのような地域を一緒に作っていきましょう。

管理運営・業務検討委員会 令和3年度活動報告

コロナ禍で一気に世の中が変化していく中で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態が続いています。訪問看護ステーション協議会としても、変化に対応できるよう会員の皆様へ情報の発信や情報共有のための仕組み化を勧めているところです。仕組み化のひとつとして、昨年度から導入しているChatworkでの情報発信及び共有があります。少しずつ登録も増え、ありがたいことに会員の80%の事業所に入って頂き活用を始めています。まだまだ、定着とまではいっていないのが現状ですが、それでも、専門委員会をChatworkのビデオ会議機能を利用したオンライン会議開催など、活用はどんどん広がっています。

今年度は、ふたつの研修会を企画し、ハイブリッド形式で開催。参加できなかった方も視聴できるようにYouTube化し、いつでも視聴できるようになりました。訪問看護の世界も世間のデジタル化に追いつけるようになってきました。

教育研修では、「その人にとっての最善を考える在宅看護とは」と題し、宮崎大学の板井孝壱郎先生に、エネルギッシュな講演を間近で受け、その事象、物事が倫理的にどうかという視点の大切さを学びました。管理者研修では、「訪問看護を取り巻く現状と今後の動向」というテーマで、鹿児島県看護協会 今村恵 専務理事に、全国の訪問看護総合支援センターの動向などから、鹿児島での課題を確認できました。また、一般社団法人LIB代表 山下友香様には、「看護小規模多機能型居宅介護設置推進と実践報告」があり、看多機にかける思いや、事業立ち上げに関する知見を得ることができました。

コロナ禍で委員会活動が停滞しないように、これからも、会員の助けになるように活動していきます。

(文責：管理運営・業務検討委員会 畑中 勇二)



今村 恵先生



山下 友香先生



板井 孝壱郎先生

教育委員会 令和3年度活動報告

2021年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄された年になってしまいました。

教育委員会では、第22回研究発表会を延期すべきか、予定通り2月26日に行くか迷いました。延期したとしても、集合での研究発表会が開催できるか目途が立たない事から、リモートによる開催に踏み切りました。

今年度、研究発表の担当になった、訪問看護ステーションかりん、訪問看護ステーション姫城、訪問看護ステーションあじさいの3施設の方々は研究計画書の作成に始まり、研究テーマの絞り込み、抄録のまとめ方など、鹿児島大学医学部保健学科の兒玉慎平准教授から7回に及ぶ指導を受けることができました。先生の熱意に3施設の方々はしっかりとこたえ、発表は素晴らしいものでした。発表者の方に「とてもいい経験になった、楽しかった」と言ってもらったのは、教育委員としては、とても嬉しく思いました。兒玉先生が講演の中でおっしゃった「看護研究とは看護そのものだ」という事を実践しているのだと強く感じました。



**COVID-19禍における
独居高齢者の
生活支援の在り方**
～複数センサーを利用した
見守りの一事例～

訪問看護ステーションかりん 森 恵
共同研究者：福永一喜・吉満孝二・藤田健太郎



**A 訪問看護ステーション
における看護師と
セラピストの連携の
在り方から得たもの**

訪問看護ステーション姫城 矢神美幸、澤田直美、井上恵子、シオボールド晶子
(理学療法士)川添真美、新納大地 (作業療法士)桑山翼



コロナ禍における施設の取組とそれに関わる訪問看護の役割

訪問看護ステーションあじさい 中山幸、蔵園美佐子、福永摩波、
好村麻美、井上チエ子、瀬戸口亜由美、大重睦美

看護研究はなぜ必要なのか

看護研究はなぜ必要か
→看護研究とは看護そのものとすら言えるものだから

看護研究の基礎的知識～看護研究の概念化～

鹿児島大学医学部保健学
地域包括看護学講座 准教授 兒玉慎平

兒玉先生には3年間を通して、「看護研究の基礎」をテーマに講演をしていただきます。皆様のアンケートを参考に来年以降の研修を企画する予定です。

(表1.参照)

アンケートの回収率が18%だったことは課題です。皆様で教育委員会を盛り上げて下さいますようよろしくお願い致します。

表1 学びたい内容

(1)課題の見つけ方	5	(7)タイトルのつけ方	3
(2)研究計画書の書き方	4	(8)キーワードの選び方	3
(3)倫理審査委員会への申請書作成	5	(9)結果の書き方	2
(4)アンケートの作成とデータ分析	6	(10)考察の書き方	3
(5)抄録とは	3	(11)結論の書き方	2
(6)スライドの作り方	4	(12)その他	0

(文責：教育委員会 前野 かつ子)

広報委員会 令和3年度活動報告

COVID-19の感染拡大に伴い、訪問看護活動を対外的に発信することが難しくなりました。同時に地区同士の集まりもできなくなり、会員同士の情報共有が難しい状況が続いています。以前より課題であったICT活用に向け、活動を行いました。

【ビジネスチャットの活用】

会員同士が「情報共有をスムーズにできるか」を課題として掲げ、昨年よりビジネスチャットを活用しています。畑中理事を中心に現在会員の80%が利用しています。



制度の情報や研修案内・専門委員の議事録などの発信を始め、会員同士で情報共有などを行っています。

特に孤立化しやすい現在の状況下において、会員同士の交流は貴重だと思われます。

【HP開設】

年1回の広報誌では伝わりにくい、訪問看護ステーション協議会の活動内容をいち早く発信するために、早急なHP作成が課題となっていました。

令和3年1月より本格的に取り掛かり、令和3年7月に役員チェック後、一般公開となっています。



各地区の訪問看護ステーション紹介や入会案内なども掲載し、多職種連携の一助になればと考えています。

(文責:広報委員会 森 恵)

鹿児島地区 活動報告

コロナと共に ～安心と安全で、どんな環境の中でもあなたのそばに、在宅生活を支えます～

鹿児島市訪問看護ステーション連絡協議会

鹿児島地区は40数か所のステーションが加入し、毎月第3月曜日に連絡協議会を開催していましたが、新型コロナウイルス蔓延と言う未曾有の災禍の中活動がやむなく休止され、今まで直接会って現状報告や現場対応の相談を行っていた活動もchatworkやZOOMの利用などWEB開催活動への変更が多くなった年となりました。

WEB開催では、県協議会から新型コロナウイルスに対する最新の対応方法がメール配信され、管理者同士が画面越しでのつながりを感じながら意見交換や情報共有を行うことができています。

今年度より、各ステーションの関わる利用者以外に、市内の療養施設(ホテル)への応援対応や医師や保健師、行政と連携しながら鹿児島市の一般感染者に対しての支援参加も行う事業所が増えてきました。在宅療養を支えるだけでなく、地域の方の支援にも奔走している状態です。



また、新型コロナウイルス予防接種が始まり、利用者のワクチン接種後の状態観察のための臨時訪問の他に、集団接種を受けたご家族の体調確認や健康相談などの支援も行うようになりました。改めて、在宅看護において地域包括ケアシステムの5つの構築要素である住まい・医療・介護・予防・生活支援の大切さに気付かされました。

そのような中、感染状況が落ち着いてきた10月に市立病院の感染認定看護師を講師に迎え、6波に向けた感染対策の講義が開催されました。

今までと同様、新型コロナウイルス対策に関しては、市内各事業所・法人で定められた標準予防策をとり訪問していますが、今回の講義を受講し、管理者同士改めて自分たちが行っている感染対策の見直しや確認、スタッフへの周知方法を再検討することができました。

先が見えないこの状況の中、利用者のご家族の気持ちに寄り添い自宅で安心して生活できるよう、各ステーションが今後も一丸となって支援に携わっていきます。

今後も質の高い支援の提供が継続できるように奮闘していきます。



指宿・南薩地区 活動報告

指宿南薩地区ステーション協議会

指宿南薩地区では、コロナ感染症の影響で地区ステーション協議会をリモートで開催していましたが、コロナ感染者の減少等あり10月から直接顔を合わせての会議を開催できました。直接会って情報交換ができる様になり、横のつながりを再確認しながらの活動を行っています。

新型コロナウイルスの感染対策

対策に関しては、各事業所で対応の仕方に多少の違いがあります。

必要に応じ基本的な感染対策を行いながら訪問を継続しています。

訪問看護師に関しては、だいたい基本的な感染対策の習得や実施等ができています。

しかし、ホームヘルパーや施設の介護職のスタッフは、ガウンテクニックというだけで不安や苦手意識がある様でした。そこで、介護職やヘルパー・調理スタッフ等を対象に研修会を開催しています。訪問看護師が中心になり、いつでも見返しができるように動画を作成しました。実際に動画を見てから実施をしてもらいました。現在、県内のコロナ感染者は確認されないことが多いですが、日々看護師だけでなく関係スタッフ間で実技練習ができていれば、とっさの時の対応が、少しでも不安なくできるのではと思います。この取り組みを定期的に継続できればと考えています。



鹿児島市:冬の癒し

日置・川薩・出水地区 活動報告

情報共有の課題解決のためのICT活用

令和3年11月18日に開催されました日置市多職種連携研修会で「ゼロから始める医療・介護のICT活用」というテーマで講師をさせていただきました。世間では、「DX」が叫ばれ、医療・介護業界も例外ではありません。我々は利用者の課題をケアを通じて解決、サポートしていきます。その過程で、事業所内及び外部の事業所との連携のための情報共有に数々の課題を抱えています。時間や距離の課題をICT活用でより良い方向へ導くことができることを我々は知ってはいます。しかし、どのようにすればいいのか試行錯誤の毎日です。好事例を持ち寄ることで前進していくことができます。今やICT活用は、ステーション運営の重要なマネジメントです。

ICT導入及び展開は、できるところから少しずつ、慣れていくことも大切です。苦手意識もあるでしょうが、便利さを体験していき、それが利用者の利益になってくることを実感できると進みやすいと思います。

ICTの**導入**手順の3step

- 1 デジタルバック（事業所内のデジタル化）
- 2 デジタルフロント（外部事業所間のデジタル化）
- 3 デジタルフロント（エンドユーザー向け活動のデジタル化）

ICTの**展開**手順の3step

- 1 デジタイゼーション
（アナログのデジタル化）
- 2 デジタライゼーション
（プロセス・システムのデジタル化）
- 3 デジタルトランスフォーメーション：DX
（社会にインパクトを与える変革）



鹿児島市：春の訪れ

伊佐・始良地区 活動報告

伊佐、始良地区訪問看護ステーション

伊佐、始良地区は、霧島市、始良市、伊佐市、湧水町の3市1町からなり、鹿児島県の中央から北緯に位置し、総面積は1,371,26平方キロメートル、県の面積の約15%を占め、総人口、約238,590人総世帯約109,806世帯です。20事業所の訪問看護ステーションで、市街地から過疎地まで訪問させて頂いています。

活動内容

マスクが手放せなくなって3年目を迎え、毎月、定例で開催されていた各ステーションでの情報、意見交換、研修会参加などもコロナ感染拡大(COVID-19)により令和3年4月、定例会議をオンライン形式(ZOOM)で開催したのを最後に思うように活動をする事ができませんでした。ですが各ステーションの管理者間で、研修のおしらせや症例検討などライングループ内で情報、意見交換など行うことにより、混乱の中でも訪問にお伺いしなければならぬ不安などを払拭することができたように思います。

また、毎年、参加しておりました福祉まつりも今年度は中止となりましたが、地域の皆さまの楽しみである福祉まつりが来年度は開催されることを願って、準備を進めて参りたいと思います。

そして、若い世代の看護師のたまごの皆さまに訪問看護に関する啓発活動の一環として、看護学校にぬくもりの配布、鹿児島県訪問看護ステーション協議会20周年を記念し制作されたDVD鑑賞などもおこなってきました。今後、小児在宅の関心も高まる中、一人でも多くの訪問看護師の仲間を増やしていくべき活動も引き続き行って参りたいと思います。



鹿児島市:燃える秋

曾於・肝属地区 活動報告

令和3年に入り、新型コロナウイルスが、肝属町内の事業所でクラスター発生した。

そこで地域で2021年2月～3月の期間、協働している訪問介護事業所(4事業所・総数29名:30～40歳4名、40～50歳5名、50歳以上20名うち70歳以上2名)に対してPPEの着脱の講習と情報交換を各事業所へ出向いて行った。

PPEは全国訪問看護事業財団から配布されているPPE無料セットを利用した。

事業所毎に研修を受けていたが、主に管理者のみだったり、資料のみの勉強会だったため実技をするのは、初めてという人が大多数であった。

初めに、スタッフがポイントを伝えながらお手本を見てもらい、次に実際に全員に着脱してもらった。



「見ていると簡単そうだったが実際にすると、難しい」「消毒を忘れてしまう」「力が入りすぎて手袋が破れた」「時間がかかる」等々和気あいあいとした講習会が行えた。



意見交換会も活発に行われて、今後もしろいろなことを教えてほしいと要望があり、地域での活動を続けていきたいと思った。

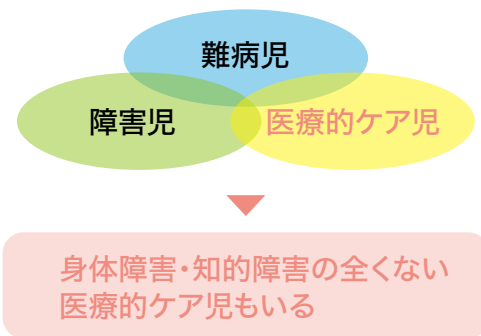
医療的ケア児とは

- ・医療的ケア(日常生活に必要とされる医療的な生活援助行為で、医師、看護師、特定の研修を受けた者と本人・家族しか行っ
てはいけないとされる)が必要な子どものこと。
- ・医療技術の発達等により、この10年で2倍以上に急増し、全国に2万人以上いるとされるが、従来の「障害児」の概念に収まら
ず、既存の制度では支援が行き届いていない。

【主な医療的ケア】



【歩ける医療的ケア児】



【医療的ケア児支援法の基本理念】

医療的ケア児、ご家族を支えるために令和3年9月18日、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が成立しました。

- ① 本人・家族の生活全般を社会全体で支える。
 - ・本人と家族の日常生活や社会生活を社会全体で支える。
- ② 関係機関・民間団体の連携による切れ目のない支援(インクルーシブ教育の支援など)
 - ・現状、保育園入園等の問題に関し、保健・医療・福祉・教育・労働の関係機関、民間団体が連携して、年齢の切れ目なく支援する。
- ③ 高校卒業後(医療的ケア児から医療的ケア者への移行後)の生活にも配慮する。
 - ・成人後も保健医療サービスや福祉サービスが受けられるよう、スムーズに提供体制に接続する。
- ④ 本人・家族の意思を最大限に尊重
 - ・例えば小学校・中学校入学に際して当事者の意思を尊重する
- ⑤ 居住地域に関わらない等しく適切な支援

【保育園・学校等への看護師等の人材配置について】

- ・医療的ケア児を受け入れるには、医療ケアができる人材の配置が必要である。
- ・今後は、支援法に紐づく予算が新たに付く事で、各自治体独自に人材配置に関する助成制度の新設が見込まれる。
- ・看護師以外にも第3号研修を受けた介護福祉士等の要請と配置も想定される。
- *受け入れ保育園の増加、学校への付き添い問題の解消が期待される ⇒ 母親の就労などの実現

【医療的ケア児支援センターの設置】

- ・ワンストップの専門的な相談、助言 ⇒ 関係機関の連絡調整、情報提供、研修を行う

医療的ケア児を支える家族は、幾度も命の危機を乗り越えて、やっと退院できたと喜ぶ一方、愛おしいわが子の命を託される責任感、重圧の中で生活をされているのが現実でもあります。やっとおうちに帰ってきても、24時間片時も離れることなく子どもの側に付き添っています。

子どもたち、ご家族の笑顔のために私たち訪問看護師も医療的ケア児やご家族を社会でどうやって支えていくべきか?真剣にスピード感を持って考えていかなければならないのではないかと思います。

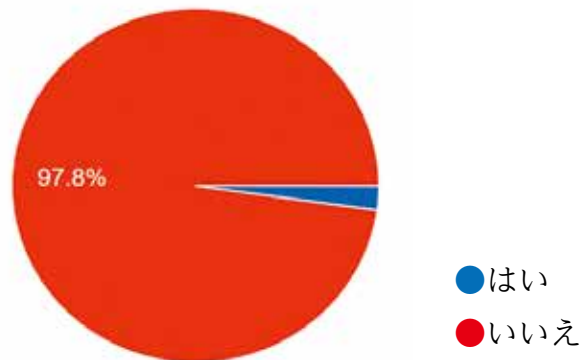
COVID-19アンケートについて

いまだ終息を見せないCOVID-19の感染ですが、第5波が一段落した際、会員向けにアンケート調査を行いました。

第5波では訪問看護の要請も少なく、実際訪問看護サービスは少なかったことが分かります。【1-①】鹿児島県は自宅での療養ではなく、全員入院もしくは宿泊施設対応としているため、陽性者の依頼は少なかったものと思われます。

1-① 陽性者の訪問に行きましたか？

45件の回答

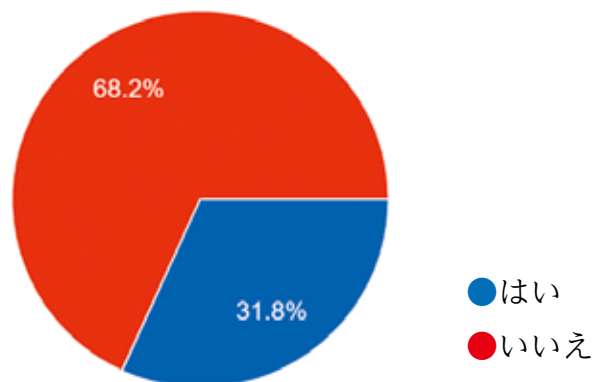


陽性者の依頼があれば、訪問看護を実施するステーションも31.8%と3割のステーションは対応可能と答えています。【1-①いいえと答えた方】

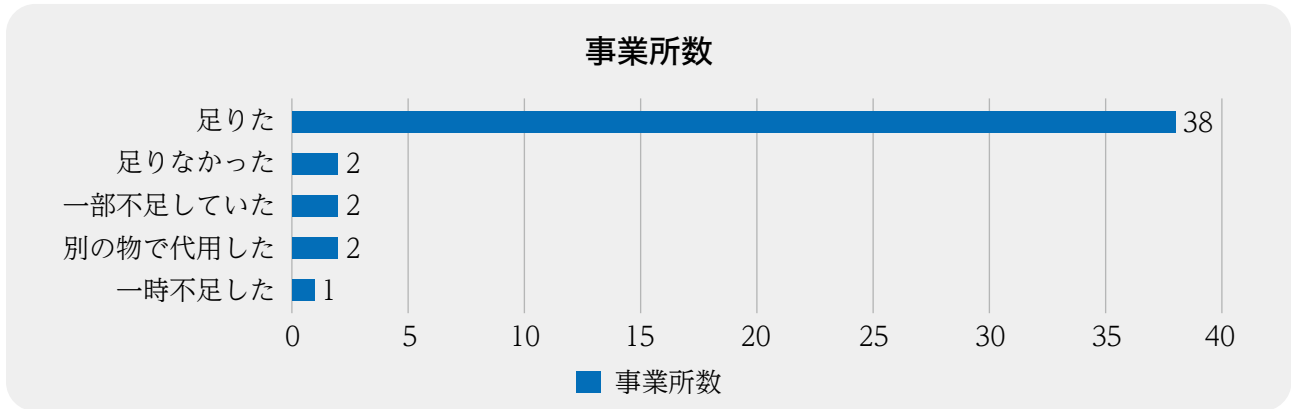
単独ステーションであれば、管理者や法人責任者の一存で対応可能となりますが、大きな法人であれば上長の指示を仰がねばならず、簡単に訪問できると答えられないステーションもあったため、3割に留まったようでした。

陽性者の依頼があれば訪問しましたか？

44件の回答



またPPEの準備不足や情報共有ができず、各ステーションが混乱をきたした様子も伺えます。【6】



第5波時に困ったことを教えてください。

主な意見

- ①各事業所によって対応が異なり、判断に迷ったことがあった。
- ②行政、医師会、在宅医会の動きがつかめずそれぞれで行動していたように思えた。指揮命令系統を統一する必要があると感じた。
- ③マニュアルがなく、動きに不安があった。
- ④県外からの帰省者への対応の情報不足

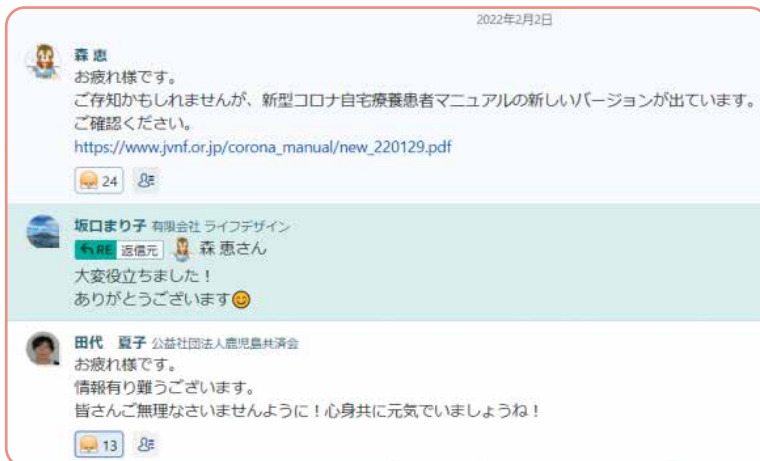
第6波で必要と思われることを教えてください。

主な意見

- ①行政との情報共有とタイムリーな連携
- ②連携体制の構築
- ③対策マニュアルの統一、命令の一本化
- ④PPEの十分な確保

連絡体制が上手くとれず、自分たちの体制確立が困難だったようです。

これらの反省を踏まえ、chatwork活用を行い、作成したマニュアルを全体共有しました。各地区でSNSやchatworkを活用し、情報共有を行っています。



COVID-19の感染拡大は、訪問看護ステーションの人員不足にもつながっています。

同時に宿泊施設に出向しているステーションもあり、どこかのステーションもできる範囲で精一杯の努力をしている最中です。

今後も情報共有を行いながら、一致団結して乗り切ろうと思います。

東洋羽毛九州販売株式会社鹿児島営業所様より
鹿児島県訪問看護ステーション協議会への

寄附金贈呈式

令和3年4月15日(木)、県医師会館3階中ホールにおいて、東洋羽毛九州販売株式会社鹿児島営業所より県訪問看護ステーション協議会へ寄附金が贈呈された。本協議会からは池田会長と林副会長が出席した。

東洋羽毛九州販売株式会社鹿児島営業所長の東郷 順一様から「新型コロナウイルス感染者治療の最前線に立つ訪問看護師の方々に対し、心から感謝申し上げるとともに、微力ながらお力になれば嬉しい。」と挨拶をいただいた。

池田会長からは、「各事業所で、新型コロナウイルス感染症発生時の業務活動継続計画作成に関する研修会や、スタッフの資質向上のための研修会など、オンラインでの研修も含め研修会等の費用に活用させていただき、感染対策を講じながら、今後も県民へより質の高い看護が提供できる体制を構築していきたい。本日はありがとうございました。」と謝辞を述べた。



入会のご案内

鹿児島県訪問看護ステーション協議会では、随時入会を受け付けております。
近隣に新しく開設したステーションや、まだ入会されていないステーションがありましたら、
入会のお誘いをお願い致します。
入会希望の方は、事務局までご連絡ください。入会申込書をお送り致します。

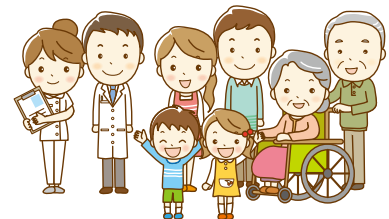
HPのご案内

<https://kagoshima-houkan.jp/>

訪問看護ステーション協議会の活動やステーションのご案内をしています。

鹿児島県訪問看護ステーション協議会事務局

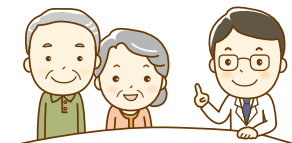
〒890-0053 鹿児島市中央町 8-1(鹿児島県医師会館内)
TEL : 099-254-8121 FAX:099-254-8129
E-Mail : isiiryo@kagoshima.med.or.jp



日本訪問看護財団電話相談サービス

相談対応日時：月曜日・水曜日・金曜日 9時から16時まで
TEL : 03-5778-7007

※詳細については、「公益社団法人日本訪問看護財団」ホームページをご参照ください。



編集後記

濱田 直美 訪問看護ステーション きずな

久しぶりの広報委員でした。コロナ禍で参加が少なかったのですが皆さんの活動を知ることができ、色々参考にさせて頂きました。

大塚 郁美 ウィル訪問看護リハビリステーション

広報委員活動を通して、学びも多く楽しい時間を過ごす事が出来ました。ぬくもりやホームページを通して訪問看護の魅力がたくさんの方へ伝わりますように～



山下 みどり 曽於・肝属地区

途中参加でしたが、皆様のご尽力により記事が完成しました。楽しんでいただければ幸いです。

立本 恵理子 鹿児島地区

コロナ禍で、委員会の皆さんと直接会えない中での活動が続きましたが、毎回たくさんの情報共有と、たくさんのパワーを頂き楽しく活動参加することができました。

有馬 夕子 始良地区

初めての広報委員会の仕事でわからないことばかりでしたが、各地区の活動を情報共有する事でたくさんの学びとなりました。ありがとうございました。

森 恵 訪問看護ステーション かりん

本年度はHPの公開もあり、ぬくもりで掲載していたページの多くがHPへ移行となりました。
紙面で作成は別と考え、地区別活動や委員会活動を掲載しています。皆でワイワイ楽しい活動ができて良かったです。



鹿児島県訪問看護ステーション協議会

〒890-0053

鹿児島市中央町8-1(鹿児島県医師会館内)

TEL:099-254-8121 FAX:099-254-8129

Eメール: isiiryo@kagoshima.med.or.jp